

EU Indicators

欧州経済指標コメント：4月英国消費者物価

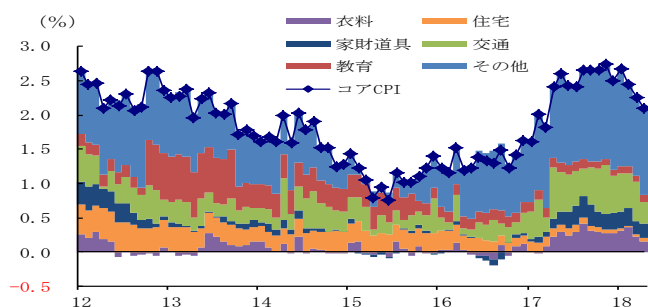
発表日：2018年5月23日(水)

～今月は暦要因に軍配、来月は原油高に軍配か～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

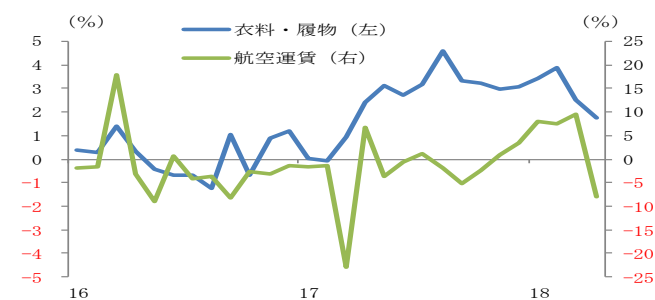
- 4月の英国の消費者物価は前年比+2.4%と3ヶ月連続で上昇率が鈍化した。内訳は、“前年同月の裏”が一巡したアルコール飲料（前月：同+0.8%→今月：同+1.4%）、たばこ（同+5.8%→同+6.1%）、食料品（同+3.0%→同+2.7%）が前月から大きな変化がなかったが、原油高による自動車燃料の押し上げでエネルギー（同+3.3%→同+4.4%）の上昇率が加速した一方、コア物価（同+2.3%→同+2.1%）が前月から0.2%ポイント鈍化し、全体の計数を押し下げた。
- コア物価の内訳は、家具・カーペット（同+1.6%→同+2.5%）、カーテン（同+1.0%→同+2.0%）、食器（同▲0.2%→同+2.0%）、通信（同▲0.4%→同+1.0%）、庭・ペット（同+2.0%→同+3.5%）、書籍・文具（同+4.3%→同+6.7%）が前月対比で上押しした一方、衣料・履物（同+2.5%→同+1.7%）、輸送サービス（同+3.8%→同▲0.5%）、耐久娯楽財（同+5.2%→同+4.0%）の下押しがこれを上回った。
- 下押しした費目は何れも前年同月の計数に断層が生じている。なかでも輸送サービスに含まれる航空運賃（同+9.5%→同▲7.9%）が大きく下振れ。これはイースター休暇時期のズレ（昨年：4月→今年：3月）により、連休中の価格が高騰しやすい旅行関連費目に“前年同月の裏”が出たため。こうしたコア物価の下押し要因剥落と、一段の原油高を反映したガソリン価格の高騰と電力・ガス料金の値上げにより、来月以降の消費者物価は再加速する公算が大きい。ただ、暦要因による下振れを考慮しても、コア物価の基調は鈍化している。

■英国：コア消費者物価の要因分解（前年比）



出所：英統計局

■英国：月毎の振れが大きい消費者物価の費目（前年比）



出所：英統計局

■英国の消費者物価（%）

	2017				2018				2018				
	2Q	3Q	4Q	1Q	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
消費者物価 (前期比)	1.2	0.5	0.8	0.2	0.6	0.3	0.1	0.3	0.4	-0.5	0.4	0.1	0.4
消費者物価 (前年比)	2.7	2.8	3.0	2.7	2.9	3.0	3.0	3.1	3.0	3.0	2.7	2.5	2.4
コア消費者物価 (前年比)	2.5	2.6	2.6	2.5	2.7	2.7	2.7	2.7	2.5	2.7	2.4	2.3	2.1
食料品 (前年比)	2.0	2.6	4.0	3.2	2.1	3.0	4.0	4.1	3.9	3.7	3.0	3.0	2.7
アルコール (前年比)	2.8	3.3	3.0	2.1	3.7	2.6	2.9	3.3	2.7	2.2	3.2	0.8	1.4
たばこ (前年比)	6.2	5.4	6.2	7.3	4.9	5.4	5.3	5.3	8.0	8.3	7.8	5.8	6.1
エネルギー (前年比)	5.8	4.9	5.1	3.7	5.3	5.8	4.8	5.0	5.5	4.3	3.6	3.3	4.4
住宅用燃料 (前年比)	3.8	5.2	6.2	6.3	5.3	5.2	6.0	6.4	6.3	6.4	6.4	6.2	5.7
自動車燃料 (前年比)	7.6	4.4	3.8	1.0	5.1	6.1	3.4	3.5	4.7	2.1	0.8	0.3	3.1

注：消費者物価の前期比は季節調整前。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。